



発行所 倉賀野神社
〒370-1201
群馬県高崎市倉賀野町1263番地
電話 027-346-2158
FAX 027-346-2184
例祭（秋季大祭）10月19日
春季大祭 4月19日
公式ホームページ www.chinju.info/

「くらがの」は、助詞としての「の」の「之」に「ケ」にあてた字という。倉賀野（＝倉ヶ野）の地



倉賀野の「賀」は、助詞としての「の」の「之」に「ケ」にあてた字という。倉賀野（＝倉ヶ野）の地

倉賀野中学校 校歌
作詞 高木 明
作曲 利光玉枝

1、問わば語らん鳥の水は 倉賀野河岸
に声ひそめ その名もゆかし宮の原 学舎
たてり われらが母校

2、群馬之野広く学びてとらん 平和の道
をひらくため 健康の美をこの庭に 友よ
咲かせん われらが母校

3、榛名嶺高き希望にもえて 若き健児よ
いざ行かん 正義と愛と真心に 行く手輝
け われらが母校



倉賀野城十六騎 武者行列

毎年十一月三日（文化の日「明治節」）に開催される町の行事である。本神社で出陣式が行われ、倉賀野小児童の金管バンドが先導し武者行列が出発した。一行は七仏薬師で知られる古刹安楽寺の前を通り、中山道を東進、日光御幣使道分岐点の閻魔堂へと向った。

倉賀野氏は武州児玉党の余流といわれ、南北朝時代に倉賀野光行が烏川左岸の崖から北西の位置に鎮座することから「戌亥の守護」と崇敬された。須賀佐渡守、勅使河原備後守、福田石見守等十六騎の面々が勇躍し倉賀野城主を支えたという。



武者行列と倉賀野小金管バンド

毎月一日の月次祭
おついたち つきなみさい
午前6時30分より。 国の隆昌と皇室の安泰、あわせて地域の安全とご家庭の平安を祈願する月ごとの祭りです。どうぞご昇殿ください。午前7時には散会となります。（但し1月1日は除く）

前橋市の郷土芸能大会に出演

倉賀野小児童の豊栄舞

本神社の祭典に氏子児童が奉納する「豊栄舞」が、前橋市から特別に招待され、昨年十一月十八日、第四十五回前橋市郷土芸能大会に出演した。

豊栄舞は神社本庁が昭和二十五年に制定した祭祀舞であり、全国の神社で奉奏されている。本神社での奉奏の歴史は長く、地元の子供たちによって



倉賀野小四年生 豊栄舞

年々引き継がれてきた。今では太々神楽と同じように地域の祭りに欠かすことのできない郷土芸能となっている。

この日、倉賀野小四年生の児童四名が前橋市民文化会館で、「植野稲荷神社太々神楽」など前橋市内五団体とともに出演会場から称賛の拍手を浴びた。舞を指導する高木千重子嬢に前橋市教育委員会から感謝状が贈呈された。

従二位平朝臣時萬謹書 扁額「倉ヶ野神社」

本神社は古くは飯玉大明神と称したが、明治時代になり御祭神名に因んで大國魂神社と改称、さらに明治四十二年から四十三年にかけて倉賀野地域の神社三社と合併し倉賀野神社となった。写真はその社号改定の際に掲げたものと伝わる（縦三十三cm・横一一二cm）。揮毫は従二位平朝臣時萬（交野時萬）。天保三（一八三二）年、京に生まれた公卿で、維新後は子爵。宮内省におかれた御歌所で参候という職にあり、歌会始など宮中の和歌のことに携わったという。大正三年没。

御本殿の屋根の葺き替えのため銅板の御寄附をお願い申し上げます。現在の倉賀野神社御本殿は、元治二（一八六四）年に建替竣工になったものです。当初の屋根は柿葺きでありました。その後明治三十三（一九〇〇）年、新たに銅板に葺き替えられ、さらに昭和十三（一九三八）年に再び銅板の葺き替えがおこなわれました。昭和十二年〜十三年当時の記録を

◎銅板一枚二口 二千元 社務所にて御受付いたします。

見ると、神社総代や氏子関係者等により入念に計画が練られ、当時の最高の材料と技術で工事が進められたことがわかります。

その最後の葺き替えから八十年が経過しました。これほどまでの長い年月を風



雪に耐えてきたことは驚異に値しますが、一方で屋根だけでなく鯉木等も劣化が見えるようになりました。ことしは平成の御代三十年目にして、明治百五十年を言祝ぐ年に当たり、さらに明年には御譲位による御代替りという佳節をお迎えすることとなります。ここに本募財事業発起の御報告を申し上げますとともに、氏子・崇敬者皆様の御奉賛を伏してお願い申し上げます。

名の由来は一に、この地が北から南の烏川方向に向って幾筋ものクラ（＝谷）が流れ落ちる地形であるからという。二に、上古、朝廷の直轄地「佐野屯倉」が近くに置かれた。また、莊園の時代になると二帯は「宮原莊」と呼ばれ、穀物などの倉が設けられたところという。

一方で「群馬」の語源に関連付けた別の見方もある。群馬は、古くは「群馬郡」の如く、「くるま」と発音された。その「群馬之野」がやがて「くらがの」に転じたのだという。

余談になるが、故高木明名誉宮司が倉賀野中学校の教諭を務めていた昭和三十二年に、同校の校歌を作詞している（左下）。作曲は利光玉枝先生。校歌の一番に「その名もゆかし宮の原 学舎たてりわれらが母校」とある「宮の原」は、右の「宮原莊」から来ている。また二番の「群馬之野広く学びてとらん」とあるところも同じく、地名の由来と深く関わっている。その倉賀野中の卒業生に、伝説のロックバンド BOWWY（ボウイ）

境内に鶯の初音、そして満開の桜の御社前に、国家皇室の安泰と氏子崇敬者の平安を篤くご祈念申し上げます。

宮司 高木直明 拜

の氷室京介や、数々の絵画と詩を遺し十七歳で夭折した山田かまち等がいる。

一年間のおもな祭事

◎一月一日 歳旦祭・初詣

新年の最初の行事です。殿内でおこなわれる歳旦祭は午前十時に開式。皇室の弥栄と国の益々の発展を祈るとともに、氏子崇敬者と地域社会の平和と繁栄を祈ります。社頭は初詣の人々で賑わいます。

◎一月十五日 北向道祖神大祭・どんど焼き

小正月の恒例行事です。早朝八時に境内の北向道祖神さまの前に祝詞を奏上、玉串をお供えした後、どんど焼き(古神札のお焚き上げ)が始まります。地元の消防第十七分団の協力をいただいています。参拝者は米粉の団子を木の枝にさした繭玉やスルメなどを忘火であぶって無病息災を祈ります。



北向道祖神さまの神事



繭玉

覆屋のなかには、文化二乙丑年正月吉日(一八〇五年)建立、男女の双体道祖神が仲睦まじく祀られています。とくに「北向き」と呼ぶのは、神仏は南面か東面して陽がさす方角を向くのがふつうですが、それを北を向いてまで庶民を守っていて下さるからといます。

◎二月十一日 冠稲荷初午大祭

境内社・冠稲荷さまの例大祭です。湯立神事



神楽殿で福投げ



湯立神事

「初午」とは二月の最初の午の日のことで、この日が全国のお稲荷様の祭日とされますが、当地では毎年二月十一日「建国記念の日」をお祭りの日と定めています。お稲荷様は五穀豊穡、商

売繁盛の神様です。神賑わいの「福投げ」行事では、毎年、福男・福女を広く募集しています。また倉賀野小学校児童による巫女舞、創作紙芝居「飯玉縁起」の上演、湯立神事などにぎわいます。

◎三月 勸学祭・ランドセルお祓い式

小学校入学を前に、毎年三月中旬頃の日曜日を選んで勸学祭がおこなわれます。社頭に日時が掲示されますのでご覧ください。子供たちが真新しいランドセルを背に神社に集まります。

「毎日の登下校が安全でありますように。楽しい学校生活でありますように。そしてしっかり勉強に取り組みますようにどうぞお守りください。」願いをこめて玉串を神前に捧げます。児童の安全を地域の皆であたたかく見守ってあげたいものです。



◎四月十九日 春季例大祭

御本社の春の大祭です。殿内では

て神さまにお供えします。そして間もなく秋の例大祭の日を迎えるのです。



◎十月十九日 秋季例大祭

江戸時代、秋祭りは旧暦の九月十九日でした。『高崎町奉行日記』の寛政四(一七九二)年の記事を見ると「九月十九日 一、倉ヶ野飯たま祭礼二付、四ツ時前(午前十時前頃) ヨリ見廻、拙者罷越え、飯たま社地脇二て、子供おとり有之、其外例年之通、暮時前罷帰ル」と記録があり、高崎城下からお役人がお祭りの見回りに来ていたことがわかります。倉ヶ野飯たま(倉賀野飯玉)は倉賀野宿の飯玉大明神、今の倉賀野神社です。

当時の「子供踊り」がどのようなものだったか想像するばかりですが、いつの時代も祭りの主役は地域の子供たちであることに変わりありません。秋の大祭には、中学三年生を中心に毎年一〇〇名の生徒が神輿の渡御に参加し

和琴の音が響く中で御本殿の御扉が開かれ、祭典が厳かにはじまります。皇室と国家、地域の氏子崇敬者の安泰を祈るとともに、五穀豊穡と産業振興を祈願する趣旨の祝詞が奏上されます。

神社総代が町内の奉賛会の各戸に「春祈禱の御神札」をお配りします。境内には露店が軒を連ね、神楽殿では地元の保存会による

太々神楽、小中学生の巫女舞奉奏が終日賑やかにおこなわれます。



太々神楽「稲荷種時の舞」

◎六月下旬 御田植祭

神様にお供えするお米の田んぼを神饌田とよびます。以前は農家の篤志に頼み、神社近隣の田んぼの一面に注連縄を張り、神饌田としてきました。しかし宅地化が進みいよいよそれも叶わなくなったため、境内に神饌田を設置することになりました。平成十三年十二月一日の愛子内親王様の御誕生を

てにぎわいます。



本番の日を前に、神輿担ぎの練習に熱がこもる。

◎十二月初旬 お正月様頒布始祭

神宮大麻(お伊勢さまの御神札)や歳神様などの御神札一そろえを、古来「お正月様」と呼びならわします。年末に向け氏子の各戸に配り始めるにあたり、各町の総代が神社に集合し頒布始めの神事を厳粛に行います。このときに合わせ、境内に「古神札納め所」のテントが設置されます。

◎年越大祓式

十二月三十一日の午後三時。参拝者は家族の名を記した「身代わり形代」を神前に持ち寄り、身に付いた一年間の罪穢れを祓い除けます。そうして心身ともにすがすがしく、新しい年をお迎えするのです。

奉祝して翌十四年の初夏に新設したものです。

稲作は、私たちの祖先が遙か昔、高天原の神々から授けられた大切な営みです。一坪ほどの小さな田ですが、御田植祭には毎年、神社総代会と倉賀野中学校生徒徒会が奉仕しています。



◎六月三十日 茅輪くぐり・夏越大祓式

大祓式は、知らず知らずのうちに私たちの身に付いたつみ・けがれ(二氣枯れ)を祓い除けて、本来の清らかな心身に立ち返るといふ儀式です。また我が身や家族のことだけでなく、広く地域や国家の再生を祈る神事です。

大祓式は一年に二度おこなわれ、六月三十日に「夏越大祓」、十二月

